

【チャレンジ問題②】

話し言葉と書き言葉く吾輩は猫であるく

五年 組 番 名前

問一

次の文章の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して  に正しく書きましょう。送りがなが必要なものは送りがなも書きましょう。

(※1) 吾輩は猫である。(ア) 名前はまだ無い。

どこで生まれたか、とんと(イ) 見当がつかぬ。何でも薄暗いじめ

じめた所で、ニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾

輩はここで初めて(ウ) 人間というものを見た。しかもあとで聞く

と、それは(※3) 書生という人間の中で一番(※4) 獰悪な種族であつ

たそうだ。この書生というのは、時々われわれを捕まえて煮て食

う、という話である。しかし、その当時は何という考えもなかった

から、別段おそろしいとも思わなかった。ただ、彼の掌に載せ

られてスーと持ち上げられた時、何だかフワフワした感じがあつ

たばかりである。掌の上で(エ) すこし落ちついて書生の(オ) かおを見

たのが、いわゆる人間というものの見始めであろう。

この時、妙なものだと思つた感じが今でも残っている。第一、毛

をもつて(※5) 装飾されるべきは顔がつつるして、まるで(※6)

薬缶だ。

『吾輩は猫である』夏目漱石。出題にあたり一部を書き改めたところがある。

(※1) 吾輩…おれさま、わし。いばつていて偉そうな言い方

(※2) 見当…だいたいの方向や、はつきりしていない事の予想

(※3) 書生…他人の家の世話になり、家事を手伝いながら勉強する人

(※4) 獰悪…性質が乱暴で荒っぽいこと。

(※5) 装飾する…飾ること。

(※6) 薬缶…お湯を沸かすための道具。もとは薬を煎じたこと

から「薬」の字を用いる。

(ア) 名前

(イ) 見当

(ウ) 人間

(エ) すこし

(オ) かお

次の文章は川田さんが「吾輩は猫である」を読んで書いた感想文の下書きです。この文章中にはひらがなの表記の誤りが五つあります。すべて探して○で囲みましょう。

私の家にわ猫ねこがいます。名前はぐっ太といます。ぐっ太は私が生まれる前から、我が家わに住んでいます。私は最近、「ぐっ太は私のことをどお思っているのだろう。」と気になってしまふことがあります。「なぜ、同じ音楽ばかり何度も繰くり返しかけているのか。」「なぜそんなつまらないこととで親とケンカしたのか。」と、皮肉ひにくたつぷりの目で、見ているのかもしれない。私がこうゆうことを考えるようになったのは、この夏休みに夏目漱石なつめそうせきの『吾輩わがはいは猫である』を読んだことがきっかけでした。

この小説の主人公は、自分のことお「吾輩」と呼ぶ、名前のない猫です。「吾輩」はもとは捨すて猫でしたが、生きるためにさまよっていたところ、珍野家ちんのにたどり着き、その家の主人である、英語教師の苦沙弥先生くしゃみやみに拾ひろわれます。この家で「吾輩」は、先生や彼のもとえやって来る個性豊かな人々を、「猫」の視点で観察します。人間へ向けた皮肉たつぷりの言葉は厳きびしいけれど、思わず納得なっとくしてしまいます。